

まちかどトーク（立野地区）議事要旨

日時：令和7年10月29日（水）19:30～21:05

場所：立野地域交流センター

参加者：44人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「高岡市の財政事情」について財政課より説明の後、質疑応答

参加者

ふるさと納税の使途は決まっていて、予算（歳入）に含まれているのか。

財政課

ふるさと納税は一度基金に入り、その後繰入金として活用させていただいている。

参加者

今後、生産年齢人口が減り、納税者も減ることが見込まれる中で、竹平記念体育館サブアリーナや旧ダイエー跡地など公共施設の整備について、今後どのように考えているのか。

市長

令和8年度予算の政策的経費は、2年前まで88億円を見込んでいたが、今年度は140億円以上を見込んでいる。色々難しい判断はあるが、今の流れ、やり方を変えなければと思っている。

参加者

高岡市の教育に係る予算は非常に少なく、先生の研修費もほとんどない。これは富山県内で比較しても低い。図書館を利用する際にも中央駐車場の料金が非常に高く、市民会館や体育館も建つ見込みがない。

市長

建物より人にもっと予算を充てた方がいいのではないかとずっと思ってきた。簡単ではないが、教育や福祉、医療、子育てに充て、皆さんの暮らしの質を上げ、暮らしやすくしたいと思っている。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長及び浦野政策アドバイザーより説明の後、意見交換

参加者

婚姻数が少ないのが非常に問題で、結婚を促すようアピールできることはないのか。市外から高岡に新たに家を建て住む方に特典を付与するなど、もっと違う予算のつけ方があっていいと思う。

市長

マッチングアプリがきっかけで結婚する人も結構いる。行政で何かできることはないか、結婚して高岡で家建ててもらうためにどういう支援制度が必要かなど、支援についてできることを色々考えてみたい。県外から人を呼び込むようなことをもっとやりたいと思っており、何ができるのか、予算化できるのかということを担当部局と話したい。

参加者

高齢になり、車の運転ができないようになると、買い物や病院に行けない。こういう問題は真剣に考えていただきたい。若者が意欲を持ち、高岡に残ってくれるような施策が必要だと思う。高岡には富山大学の芸術文化学部があり、全国から優秀な人たちが来ている。そんな人たちが、地元企業との共同研究や起業する際には、県や市がもっとお手伝いしてくれればいいと思う。

市長

富山市で「おでかけ定期券」※を展開しているが、継続して使う人は、使っていない人と比べ、歩数が増え、医療費が削減されたという調査結果があり、そういった健康づくりの観点からも、公共交通を見直していきたい。例えば研究者が高岡に残ってビジネス、移住してもらえるように、ビジネスサポートセンターを整備しようと思っている。大きな予算ではなくてもできるので、予算の使い方で少し高岡をチェンジしたい。

※富山市内在住の 65 歳以上の方が、市内各地から中心市街地へお出かけになる際に、公共交通機関を 1 乗車 100 円で利用できる定期券

参加者

例えば、戸出、西明寺、河川敷にあるパークゴルフ場は同じ使用料なので、共通券で運用してはどうか。

参加者

高岡に働く場所を作ってほしいというのが、若者の声じゃないかなと思う。都会の大学を出ても、高岡には若者が思う働く場所もほとんどなく、帰ってきたくても来られない。

市長

大学を卒業した人が故郷に戻り、働きたい場所がないのかもしれない。人手不足で、なかなか学生、社員が集まらないという企業がたくさんある。高岡法科大学の卒業生の 6 割は県内に残っている。企業誘致や高等教育機関も含め、色々やらなければと考えている。

参加者

高岡のイオン、富山のファボーレには若者がたくさん来て賑わっているが、狙うべきことは高岡駅前に人を集めることだと思う。地元の町内で夏に納涼祭をしているが、若い人がボランティアでやってくれていて、その時だけ賑わう。高齢者施設に慰問する劇団をお手伝いしているが、年寄りばかりで若い人が入らない。そういったことを後押ししていただければ、もう少し楽しみな街になると思う。

参加者

放課後児童クラブ（学童）について、もっと早い時点で、入所の可否が分かるようにしてもらいたい。民間や他の校区のクラブに入所が可能かなど、保護者に分かり易く優し

い制度、システムを構築してもらいたい。

食生活改善推進員、ヘルスボランティアの会員が減少しているので、市長にインパクトのあるPRをお願いしたい。

市長

健康づくりのための活動は、大切なことと思っている。これをきっかけに宣伝してみたい。学童はとにかく世話をする人が少ないらしい。だから、皆さんの学童が必要だという声になかなか十分にお応えできていないが、もっと何が出来るか考えていきたい。

参加者

健康寿命の延伸に活用できるよう校区別の一人当たりの介護・医療費が分かるようにして欲しい。